

主な出来事

【内政】

- モシュパ・マニャナ地区補欠選挙で与党勝利
- ナミビア難民がSADC事務局に請願書を提出
- 閣僚人事の発表

【外政】

- ブラヒム・ガリ西サハラ「大統領」のボツワナ訪問
- ボツワナ、第6回南部アフリカ関税同盟(SACU)首脳会合をホスト

【経済】

- モルプレ B 石炭火力発電所1~4号機に係る取引の頓挫
- Milk Afric 社の操業開始により、ロバツェで1000名が雇用

【文化】

- 第19回(南部アフリカ)大学スポーツ連盟競技大会の開催

【内政】

○ 電子投票機導入を巡る訴訟が2019年総選挙の実施に影響

電子投票機(EVM)の導入を巡って野党ボツワナ議会党(BCP)が独立選挙委員会(IEC)を昨年提訴したことに関し、IECは本訴訟が長期化し2019年総選挙の準備に支障を来している旨明らかにした。IECは総選挙の選挙人登録日を9月3日から11月11日までと公表している。(2日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ ボツワナ政府、電子投票機訴訟の重要証人を失う

ボツワナ独立選挙委員会(IEC)は、電子投票機(EVM)製造元であるインドの独立選挙委員会を訪問し、EVM導入のメリットをフランシスタウンの法廷で証言するよう求めていたが、インドの同委員会は自国内で噴出したEVMの信頼性を巡る論争を理由にこれを固辞した。インドでは電子投票による選挙が行われたが、幾つかのEVMで異常発熱による不具合が発生していた。(3日:サンデー・スタンダード紙)

○ 冬期国会が開幕

4日、冬期国会がモレバツィ議員(4月のモチュディ東地区補欠選挙で当選)の宣誓式と共に開幕した。本国会では15の法案が審議される予定。(4日:デイリー・ニュース紙)

○ モシュパ・マニャナ地区補欠選挙で与党勝利

16日、モシュパ・マニャナ地区補欠選挙が実施され、与党ボツワナ民主党(BDP)から立候補したガレ氏が4039票を獲得し当選を果たした。対抗馬となった野党連合「民主改革のためのアンブレラ(UDC)」候補の獲得票は1530票、無効票は101票であった。同議席は、同地区選出の

マシシ副大統領(当時)が4月1日に大統領に就任したことで空席となっていた。(18日:デイリー・ニュース紙)

○ カティ司法国防大臣は化学兵器禁止法案を提出

カティ司法国防大臣は化学兵器禁止法案を議会に提出した。同法案は、ボツワナが批准する化学兵器禁止条約に対応するもので、ボツワナ国内における化学兵器の開発、生産、貯蔵及び使用を禁止すると共に、すでに存在する化学兵器の廃棄を定めている。(18日:デイリー・ニュース紙)

○ ナミビア難民がSADC事務局に請願書を提出

ドゥクイ難民キャンプに滞在するナミビア難民は、SADC事務局に対してナミビア政府とカプリビ回廊住民との平和的対話を仲介するよう求める請願書を提出した。ボツワナ政府は、ナミビア難民に対して7月11日を期限に難民認定を取り消す旨宣告していた。(20日:ボツワナ・ガゼット紙)

○ 麻薬規制法案承認

18日、麻薬規制法案が議会で承認された。同法案は麻薬及び向精神薬の不正取引の防止に関する国連条約に対応するもので、薬物規制の他にも薬物中毒者に対するリハビリセンターの設置等も定めている。(20日:デイリー・ニュース紙)

○ 閣僚人事の発表

20日、マシシ大統領は新たな閣僚人事を発表し、セレッツェ外務国際協力大臣をインフラ・住宅開発大臣に任命すると共に、ダウ・インフラ・住宅開発大臣を外務国際協力大臣に任命した。(21日:デイリー・ニュース紙)

○ ボツワナ、世界平和度指数で世界29位

2018年度世界平和度指数(GPI)が発表され、ボツワナは世界163カ国中29位にランクされ、アフリカ大陸ではモーリシャスに次ぐ第2位にランクされた。(25日:モニター紙)

○ モハエ元大統領、小売店経営を巡りジンバブエ元副大統領と敵対

ボツワナ小売り大手 Choppies の取締役会長であるモハエ元大統領は、ジンバブエにおける同社の51%の株を保有するムポコ・ジンバブエ元副大統領に対して保有株を直ちに放棄するよう求める書簡を送付すると共に、ジンバブエ政府宛にも同書簡写しを送付した。ジンバブエ政府は所得隠しと脱税の疑いで同元副大統領を告発し、Choppies 経営陣に対しては、同氏の保有株を取り上げるよう圧力をかけていた。(29日:メヒ紙)

【外交】

○ ブラヒム・ガリ西サハラ「大統領」のボツワナ訪問

1日、ブラヒム・ガリ西サハラ「大統領」は、ボツワナを訪問しマシシ大統領との会談を行った。マシシ大統領は西サハラとの間で外交関係を樹立する決断に至った旨、また、AUの原則を尊重する旨述べた。ガリ氏はボツワナによる独立支援に謝意を述べると共にモロッコによる領地占有に対する非難を訴えた。ガリ氏は3日間滞在し、ツォフワネ副大統領、コルウェ国民議会議長と会談する他、鉱山を視察する予定。西サハラ「首脳」によるボツワナ公式訪問は今回が初となる。(1日:デイリー・ニュース紙)

○ ボツワナ、南スーダンと高等教育に関するMOUを締結

ボツワナ政府は南スーダンとの高等教育に関するMOUの署名式を実施した。ボツワナからはンガカ高等教育・研究・科学技術大臣が、南スーダンからはトゥット高等教育・研究・科学技術大臣が出席し、MOUに署名した。南スーダンはボツワナに職業訓練校奨学生の受け入れを求めている。(4日:デイリー・ニュース紙)

○ イタリア政府、カーマ環境・天然資源保護・観光大臣に勲章を授与

イタリア政府はカーマ環境・天然資源保護・観光大臣に対して星勲章と勲爵士の階級を授与した。同勲章は同大臣が両国の二国間関係深化に励み気候変動対策に寄与してきたことに鑑み授与された。カーマ大臣は授賞式において、これまでイタリアから気候変動対策を目的として4千万ドル以上の支援がなされた旨述べた。(11日:デイリー・ニュース紙)

○ 新エスワティニ高等弁務官及び新ポーランド大使の信任状捧呈

新エスワティニ(スワジランド)高等弁務官及び新ポーランド大使はマシシ大統領に信任状を捧呈した。インタビューに対しエスワティニ高等弁務官は、二国間における農産物貿易の利潤を最大化する必要性を述べた。また、ポーランド大使は、両国は、鉱物、農業、教育、保健の分野で良好な関係を築いており、新たに観光分野においても関係を強化していきたい旨述べた。(27日:デイリー・ニュース紙)

○ マシシ大統領、AU首脳会合への出席を予定

マシシ大統領は7月1～2日にモーリタニアで開催されるAU首脳会合に出席する予定。同大統領は、これまでも副大統領として同首脳会合に出席していたが、大統領としての出席は今回が初となる。同会合では「腐敗撲滅:アフリカの変革に向けた持続可能な道筋」をテーマに反腐败に対する各国取り組みなどが議論される。(29日:デイリー・ニュース紙)

○ ボツワナ、第6回南部アフリカ関税同盟(SACU)首脳会合をホスト

29日、ハボロネにおいて第6回SACU首脳会合が開催され、SACU議長であるマシシ・ボツワナ

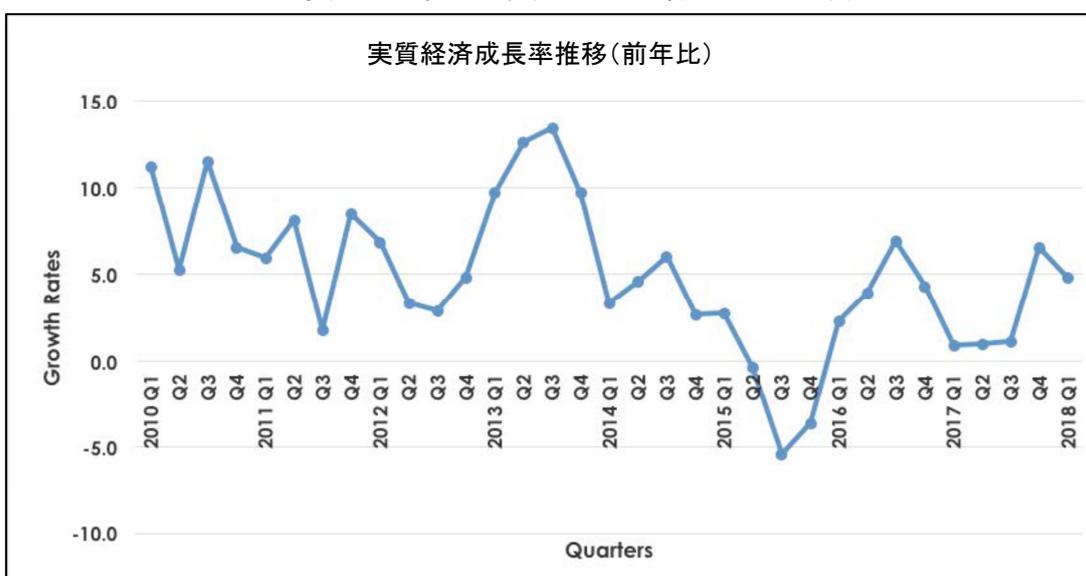
大統領の他、ムスワティ3世エスワティニ国王、ガインゴブ・ナミビア大統領、ラマポーザ南ア大統領、タバネ・レソト首相及びエラゴSACU事務局長が出席した。SACU議長職は7月にタバネ・レソト首相に引き継がれる予定。(7月3日:デイリー・ニュース紙)

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

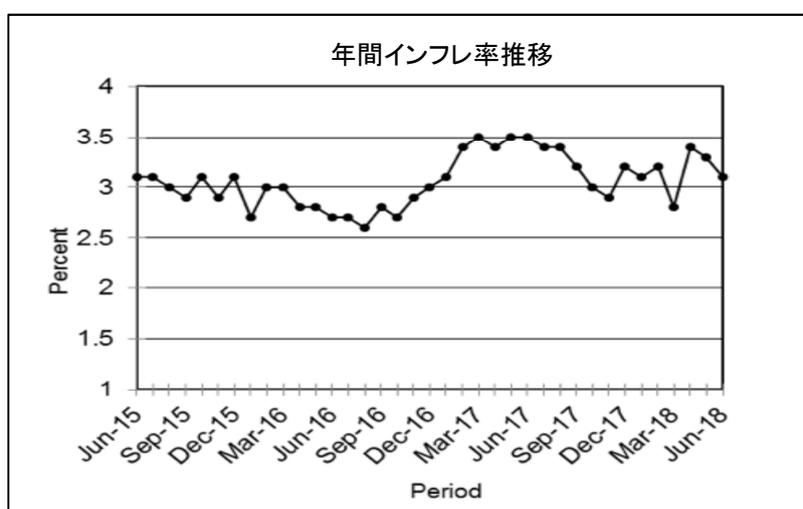
1) 経済成長率(出典:ボツワナ統計局)

2018年第1四半期の GDP は461億5250万プラとなり、前年第4四半期(466億5370万プラ)と比べて-1.5%となった。(2017年GDP合計は1801億1270万プラ)



2) 年間インフレ率(出典:ボツワナ統計局)

2018年6月は3.1%(5月は3.3%)。



3) 為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

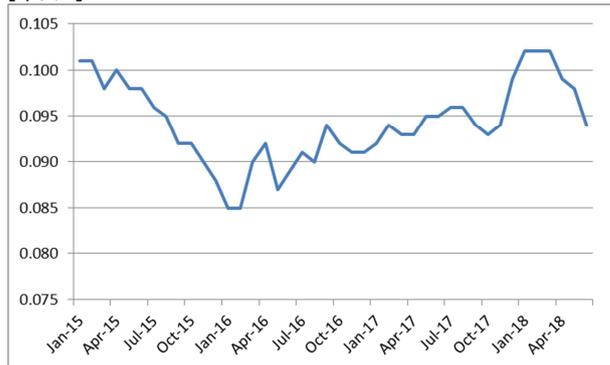
2018年6月29日

1プラ=0.094米ドル
1プラ=1.266南ア・ランド
1プラ=10.43円

2018年5月31日

1プラ=0.098米ドル
1プラ=1.208南ア・ランド
1プラ=10.75円

[米ドル] 為替推移(1プラ=0米ドル)



[円] 為替推移(1プラ=0円)



○ ダイヤモンド産業

1) ルカラ・ダイヤモンド社, 株主に配当金を支払う

ルカラ・ダイヤモンド社(カナダ)は、6月21日に1株につき25米セント(約0.195プラ)の四半期に一度の配当金を支払うと発表した。ボツワナで登録した株主は同社の取引銀行スタンダード・チャーター銀行の為替レートで配当を受け取ることができる。(15日:ボツワナ・ガーディアン紙)

2) ルカラ・ダイヤモンド社, カロウェにダイヤモンド鉱山の露天掘り追加を計画

ルカラ・ダイヤモンド社(カナダ)は、現在実施している実現可能性調査の完了後、レタカネのカロウェ・ダイヤモンド鉱山にさらなる露天掘りを実施する計画を発表した。同社は2012年7月のダイヤモンド生産の開始から、カロウェ鉱山では年平均32万カラットのダイヤモンドを生産しており、同鉱山は2026年まで露天掘り可能であり、2036年まで地下採掘が可能とされている。(29日:ボツワナ・ガゼット紙)

○ エネルギー・資源

1) モルプレ石炭鉱山社, 2025年までに石炭を二倍生産予定

国内唯一の石炭生産企業であるモルプレ石炭鉱山社は、現在の280万トンの石炭生産を今後7年間で800万トンまで増加させる計画である旨発表した。(8日:メヒ紙)

2) モルプレ B 石炭火力発電所1~4号機に係る取引の頓挫

ボツワナ電力公社(BPC)の唯一の株式保有主であるボツワナ政府は、ルプレB石炭火力発電所

1～4号機を建設したChina National Electrical Engineering Corporation (CNEEC)社の関連企業及び国営企業であるCMEC社との交渉を主導してきたが、主にCMEC社が提出した発電所売買に係る提案を巡る相違によって交渉は頓挫した模様である。今年初め、取引に近い政府職員は提案書を中国企業から受け取ったことを認め、政府が合意すれば、公共調達委員会(PPADB)がCMEC社からの独占的な提案の提出を可能にする入札を行うであろうと発言していたが、同委員会は今週になってCMEC社に限定した入札を中止する旨発表した。(8日:メヒ紙)

3)太陽光発電工場入札において25社が候補

モラレ鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障大臣によると、100MWの太陽光発電工場の建設に関し、昨年5月に166社の投資企業が入札に参加し、ボツワナ電力公社(BPC)の審査プロセスを経て、25社が候補に挙がっている。(13日:デイリー・ニュース紙)

○ ボツワナ銀行、基本割引率・基準貸付利率を5.0%に維持

ボツワナ銀行は、インフレ率が政府目標の3～6%内となっていることを受け、基本割引率・基準貸付利率(当館注:従来の公定歩合)を5.0%に維持する決定を公表した。(21日:デイリー・ニュース紙)

○ 閣議、狩猟禁止見直しに係る協議を開始

閣議は4年間実施されている狩猟禁止を見直す協議を開始する。ベンソン＝モイトイ地方自治開発大臣によると、同協議は冬期国会が終了した後に開始され、二か月間に亘りプロのハンター、共同体を元にした自然資源管理プログラムのメンバーを含め、コトラ(当館注:民族・地方ごとの伝統的な集会)、地方自治体、関連団体を通じて協議される見通し。(25日:モニター紙)

○ Milk Afric社の操業開始により、ロバツェで1000名が雇用

ボツワナ開発公社(BDC)の社長によると、Milk Afric社は乳製品を生産準備の最終段階にあり、乳製品の生産等に関連してロバツェ在住の1000名以上が雇用される見通し。Milk Afric社の乳製品生産により、2018年末までに乳製品の国内需要の60%を国産で賄えることになる。(30日:ウイーク・エンド・ポスト紙)

【文化】

○ ボツワナ統計局とボツワナ大学、覚書を締結

ボツワナ統計局とボツワナ大学は研究、教育及びコミュニティへのサービス分野で両者の協力強化する覚書を締結した。(9日:デイリー・ニュース紙)

○ **第19回(南部アフリカ)大学スポーツ連盟競技大会の開催**

18日、第19回大学スポーツ連盟競技大会(当館注:南部アフリカ諸国間の大学競技大会)の開会式がハボロネで開催された。同開会式でツォフワネ副大統領はボツワナが2014年にはアフリカ大陸ユース競技大会、昨年にはネットボール・ワールドカップ、世界野球ソフトボール連盟総会を開催国としてホストし、今年には第7回世界女性スポーツ会議をホストした旨発言した。(20日:デイリー・ニュース紙)